

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公開番号】特開2007-64987(P2007-64987A)

【公開日】平成19年3月15日(2007.3.15)

【年通号数】公開・登録公報2007-010

【出願番号】特願2006-242365(P2006-242365)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/53	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)
C 1 2 N	5/06	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
G 0 1 N	33/566	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/53	Z N A D
C 1 2 Q	1/02	
C 1 2 N	5/00	E
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	1/18	
G 0 1 N	33/566	
G 0 1 N	33/53	P
C 1 2 N	15/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月30日(2008.5.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

IL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを含有すると思われる試料中のIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを検出する方法であって、前記試料をIL-22ポリペプチドと接触させ、前記試料中のIL-22R / IL-22ポリペプチドコンジュゲート又はIL-10R / IL-22ポリペプチドコンジュゲートの形成を確かめることを含んでなる、前記コンジュゲートの形成が前記試料中のIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドの存在を示す、前記方法。

【請求項2】

前記試料がIL-22Rポリペプチド又はIL-10R ポリペプチドを発現すると思われる細胞を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記IL-22ポリペプチドが検出可能な標識で標識されるか、又は固体支持体に付着し

ている、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

生物活性分子を I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドを発現する細胞と結合させる方法であって、前記細胞を前記生物活性分子と結合している I L - 2 2 ポリペプチドと接触させ、前記 I L - 2 2 ポリペプチドと前記 I L - 2 2 R、又は前記 I L - 2 2 ポリペプチドと前記 I L - 1 0 R ポリペプチドの結合を可能にすることを含んでなり、それによって前記生物活性分子と前記細胞を結合させる前記方法。

【請求項 5】

前記生物活性分子が毒素、放射標識又は抗体である、請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記生物活性分子が前記細胞の死を引き起こす、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドを発現する細胞の少なくとも 1 つの生物学的活性を調節する方法であって、前記細胞を (a) I L - 2 2 ポリペプチド、(b) 抗 - I L - 2 2 R ポリペプチド抗体又は (c) 抗 - I L - 1 0 R ポリペプチド抗体と接触させることを含み、前記 (a) I L - 2 2 ポリペプチド、(b) 抗 - I L - 2 2 R ポリペプチド抗体又は (c) 抗 - I L - 1 0 R ポリペプチド抗体を前記 I L - 2 2 R ポリペプチド又は I L - 1 0 R ポリペプチドと結合させることにより、前記細胞の少なくとも 1 つの生物活性を調節する方法。

【請求項 8】

前記細胞が死滅する、請求項 7 に記載の方法。